

超高磁場が拓く生体系NMR:最新技術と応用

日時:2010年7月29日(木)、30日(金)

場所:大阪大学蛋白質研究所(吹田キャンパス)1階講堂

(http://www.protein.osaka-u.ac.jp/index_jap.html)

7月29日(木)

13:00 所長挨拶

長谷俊治 (蛋白質研 所長)

Session 1

13:10 高磁場NMRの意義と共同利用

藤原敏道 (阪大 蛋白質研)

13:35 北大におけるNMR研究のための技術開発

稲垣冬彦 (北大 先端生命)

14:00 新しいデータ構造、データ評価法と自動解析技術 超高磁場、超高感度NMR時代に向けて

小林直宏 (阪大 蛋白質研)

—休憩—

Session 2

14:45 NMRによる膜骨格蛋白質とその制御因子の構造生物学

廣明秀一 (神戸大 院医 構造生物学)

15:10 膜タンパク質のダイナミクスと機能

嶋田一夫 (東大 院薬)

15:35 抗HIVタンパク質による塩基変換反応のNMRシグナルを用いた実時間追跡

片平正人 (京大 エネ理工研)

—休憩—

Session 3

16:20 転写関連因子のNMR構造解析

西村善文 (横浜市大 院生命ナノシステム科学)

16:45 リガンド結合によるリポカリン型プロスタグランジンD合成酵素の構造変化

大久保忠恭 (阪大 院薬)

17:10 SAILアミノ酸を用いたタンパク質の構造とダイナミクス研究手法の最近の進歩

甲斐荘正恒 (名大 構造生物学セ)

パネルディスカッション

赤坂一之 (近畿大)、阿久津秀雄 (阪大)、河野敬一 (北大)、木川隆則 (理研)、
神田大輔 (九大)、小林祐次 (大阪薬大)、寺沢宏明 (熊本大)

—懇親会—

7月30日(金)

Session 4

09:20 950MHz-NMRの設置の経緯、現状、これからの方針

池上貴久 (阪大 蛋白質研)

09:45 高磁場NMRを用いる蛋白質の動的構造解析の可能性

楯真一 (広島大 院理)

10:10 超高磁場NMRによる複合糖質の動的構造・相互作用解析

加藤晃一 (岡崎統合バイオ)

10:35 NMRによるヘムオキシゲナーゼのヘム認識機構の解明

菅瀬謙治 (サントリー生有研)

—休憩—

Session 5

11:20 磁気共鳴によって細胞を探る

白川昌宏 (京大 院工)

11:45 超高磁場NMRのもたらすもの —感度向上と分解能—

児嶋長次郎 (阪大 蛋白質研)

12:10 少ない距離情報で構造を決める-4次元分子動力学

山崎俊夫 (理研 生命分子システム)

世話人 :小林直宏、藤原敏道、児嶋長次郎、池上貴久(阪大 蛋白質研)

連絡先 :〒565-0871 吹田市山田丘3-2 大阪大学蛋白質研究所 藤原敏道

TEL :06-6879-8598 E-mail:tfjwr@protein.osaka-u.ac.jp

参加費・事前登録:不要